出会い　ふれあい　助け合い

KSKP サロン・あべの NO.52

一九九〇年十月二九日発行（毎日発行）KSKP通巻一四二九号一九八四年八月二〇日第三種郵便認可
発行人＝関西障害者定期刊行物協会　大阪市東成区中本一－三－六　ベルビュウ森の宮二〇七号

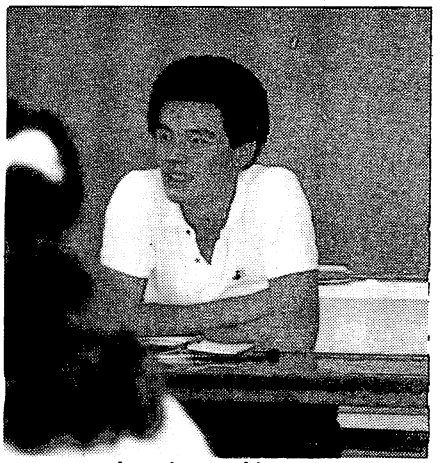
＜サロン・あべの＞９月の出会い

身体障害者の”スポーツは”

スポーツの秋

各地に大きな被害を残して台風十九号が通り過ぎ、残暑がきえた平成二年九月二二日（土）育徳コミュニティーセンターの研修室に於て、大阪市立身体障害者スポーツセンター（大阪市東住吉区長居公園一－三二）の指導員をしておられる森島勉氏をお迎えして、障害者の「スポーツ」についてお話を伺った。

まず最初に、大阪市立身体障害者スポーツセンターの全体像をビデオで見せていただいた。



森島　勉氏

この施設は、身障者の孤立化を防ぎ、交友関係を広げて社会参加の促進をとの希いから、日本で初めて身体障害者が利用出来るスポーツセンターとして昭和四九年、長居公園の北西の角に建設された。

年々施設の充実化が進んで、障害児・者ら老若男女がスポーツを楽しめる設備が整って来た。

スポーツと言ってもレクリエーションとしてのスポーツ（ボーリング・車椅子サッカー・水泳・スキー・シャトルコック・インドアアーチェリー等）と競技者養成（車椅子スラローム・車椅子マラソン・卓球・車椅子バスケットボール・水泳・インドアアーチェリー等の身障者国体出場者や・他グループ対戦等目標を持っている人）との二つが有る。一般的には、レクリエーションとしてのスポーツが楽しまれている。

又、センターの行事として盆踊り、クリスマス等のレクリエーションがある。

そしてここには、ボランティア教室があり、競技の実技や記録の控え方等の研修を受けてもらい、センターに来る人達の相手をしたり（卓球等）、競技会の記録等の手伝いをしてくれるボランティアを養成し、そのグループが活動している。

その他に、会議室・図書室・和室・軽食が出来るラウンジ等が有り、幅広く利用されている。センターの玄関を入ると二階まで吹き抜けになった高い天井、中央にスロープ、奥には広い円筒形のエレベーター、一・二階には男女別車椅子トイレ等があって、身障者にとって安心して行ける場所となっている。

ビデオ観賞後、人間の体のしくみからお話が始まった。

昔々の人間は、四本足で体を支えて、歩いていた。それが高い木の上の果物か何かを欲しくなって、二本足で立って手を伸ばしそれを取るようになる。その後、二脚歩行が可能になって手が自由に使えるようになった。二本の足で五〇％づつ体重を支えるから足が丈夫に強くなったと考えられるかもしれないが、「立つ」と言うのは、足だけでなく背骨が伸び、背筋・腹筋のバランスがちゃんと働いてこそ、まっすぐに立てる。この動きは、頭脳から筋肉に命令が出ている。障害があると言うのは、この命令がうまく伝わらないことを言う。

脳から脊髄を通り手足の先迄、命令が届けば何んの障害もなく動けるが、何処かで脳の命令を伝えにくい個所があると、そこが障害となる。健常者と障害者の体のしくみは変らないが、命令の伝達が少し違うだけ。だから、身体障害者のスポーツと言っても、特別に変わったものではなく、一般の健常者がしている普通のスポーツをその人の障害に合わせて、少し変えてやればよいだけ。スポーツとは、体を動かしてするものであるから、その動かす事に工夫をすればよい。たとえば、水泳の場合、いきなり水に入ってもがいても、すんなりと浮いてはくれない。まず、水に慣れること、水の中で立つこと、歩くこと。そうしている間に水の感覚を味わい、仰向けに寝て浮いてみる。こうなれば、泳ぐことも難しくなくなる。こうなるまで、同じ事を繰り返し脳と体をコントロールしていく。

他のスポーツでも同じことが言える。初めから一般のルールのスポーツをするのではなく、興味を持ちスポーツに慣れ親しんで、自分の障害に合ったやりかたでしていけばよい。スポーツは誰にでも出来るものであり、特別なものではない。スポーツを通して仲間を作ったり、ストレスを解消したりして欲しい。その為の医療相談をセンター内でしている。

これまでに障害者用にと、考えられた特別なスポーツは普及しにくい。健常者と同じルールのスポーツをすることによって、障害者は意欲を高め、挑戦していくことに意義を持ち、目標が達っせられた時の満足感が大きく、自信につながってくる。卓球などは、健常者とのグループに参加してやってる人もいる。

スポーツは、障害者も健常者もゆとりを持って、気持よく楽しくすることと、長く続けることが大切である。そのためのお手伝いであれば、いつでもさせていただきます。と言っていただいてお話が終った。

この後、参加者と色々なスポーツについて話合いがあった。

ちなみに、この日参加された方々のスポーツ歴を伺ったら、インドアアーチェリー（五年）、スキー（四年）、車椅子サッカー（八年）等、身障者スポーツセンターで長く楽しんでおられた。

ビデオ機器操作は植松氏。司会は南光氏

この日の参加者二三名

50号記念誌届きました

みなさんからたくさんの原稿をいただいて、すてきな記念の五〇号ができたのが八月でした。嬉しいことに、読んでいただいたみなさんから、早速たくさんの感想のお便りをいただきましたので、ご紹介します。

（五十音順にさせていただきました）

熱意ひしひしと

秋野　富美子

皆様、五周年の記念行事やカーニバルでのバザーとか、本当に大変お疲れさまでした。何時もお元気で感心しています。

先日は、本当に立派な五周年記念にふさわしいサロン・あべの五〇号をご送付いただきまして誠に有難うございました。

私のも、いの一番に載せていただき、とても嬉しく胸がいっぱいになりました。

早速お礼をと思いながら殆ど毎晩のように秋の会合が詰まっていまして家事の雑用に追われていました。誠に申し訳ありません。拝読させていただいて、率直に感じた事は、サロンに対する皆様の熱意がひしひしと感じられ一人一人の生き生きとした表情が目に見えるようで一気に読ませていただきました。

一人の人間としては、全く力のない小さな私ですが、仲間に入れていただき共にグループ活動させていただける喜びを実感しています。大変異常な気候ですので、くれぐれも皆様、お体ご自愛の上、今後共益々のご活躍を心からお祈りいたします。

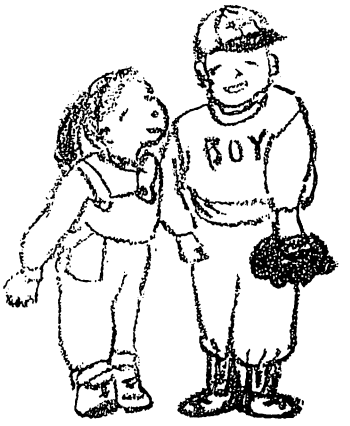
いつの日かサロン参加を

大岩　悦子

今年は、ひときわ厳しい夏の暑さでございましたが、やっと虫の声が庭先より、聞かれるようになりました。

此の度は、サロン・あべの五〇号記念誌をお送りいただきまして、ありがとうございました。

何べんも拝読させていただき、皆々様のご熱意に只々頭が下がります。私も三年前より、肢体障害者になり、初めて身の不自



50号記念誌届きました

由を感じました。でも、ご近所に中野君江様がいらっしゃるので、お元気なお言葉に何時も勇気付けられております。ありがたい事と感謝いたしております。

一度サロン・あべのにも出席させていただきたく思っております。何時もサロン・あべののお便りをいただきますと、冨田様のお顔が頭にうかび、お会いしたいなぁと思っております。其節は、よろしく。

皆々様のご奮闘をお祈り申し上げます。

出会い　ありがとう

岡　賀寿子

暑い暑い夏もあと一息、この度は、おめでとうございました。

お近くに、すてきな出会いのチャンスを作っていただきまして、ありがとう。

まだ、二回しか参加していない私ですが、〃サロン・あべの〃紙を送って戴き、いつも楽しく読ませていただいています。

これからも、あまり出席できないかもしれませんが、よろしくね。少しずつ参加出来る自分に変えていきたい・・・とは、思っているのですが、やはり仕事の手が遅いので人より時間がたくさんいります。自分なりには、頑張っているのですが、もう少し待ってて下さいネ。今後とも、どうぞお仲間に入れて下さいね。よろしく。

巡り会いの輪を広げて

滝　本　涼　子

朝夕やっと涼しくなり、ほっといたしております。

サロン・あべの誌ありがとうございました。五周年になりますそうで、心よりお慶び申し上げます。ここまで、育てられたご労力いかばかりかと存じますが、その中でいい方と巡り会われて、ほんとうに何よりと存じます。

「点から線へ」の文章も感銘深く読みました。手づくりのあたたかさがにじみ出て、きっと多くの方々に勇気と希望と慰めを与えたにちがいないとぞんじます。

これから、一〇周年にむけてさらに大きく飛躍されますよう念じております。いちばん求められている〃出会い・ふれあい・助け合い〃の輪を私の身のまわりに少しでも広げられるよう心がけたく存じます。ほんとうに、ありがとうございました。

継　続　は　力　な　り

辻　本　輝　子

記念誌が出来ました。どうぞと軽く手渡された本は、皆様の温かい心と想いが満載された、ずっしりと重みのあるすばらしい本でした。気を抜く事なく一息に読ませていただきました。

「継続は力なり」と申します。五年間の着実な積み重ねでサロン誌も阿倍野の地域に根をおろし、出会いふれあい助け合いを軸に大きく成長されたと思います。

私は、何のお手伝いも出来ずに細々のお付き合いでしたが、五年の歩みの早い事に驚いています。発会から今日迄、精魂こめて編集にたずさわれ育んでこられた冨田さん始めご後援なさった皆様の努力の結晶と思います。石田さんより、細心なチェックを重ねての複雑な編集のプロセスを伺い、その大変な努力と熱意に敬意を表します。その実りが福祉広報紙コンクールの三連賞に輝いた幸せの要因だと思います。

これからも活字のみならず、陰の編集者の熱い心も合わせて読ませていただきたく思います。今、改めて五年間の頁をくって見て、様々な途を極めた方の貴重なご講話に知識を広め、行間を潤すホットな挿絵に心なごませ、皆様の体験から出た本音のお話に同感し、人と人のふれあいのすばらしさを再確認しています。

「サロン・あべの」紙をかけ橋に阿倍野に留まらず、各地域の方々と出会いふれあを広めつゝ、交流する事が出来れば素晴らしい事だと思います。これからも十年に向って、より一層大きく発展なさる事を心から祈っています。

記念誌を読んで

出口正敏

〃サロン・あべの〃五〇号ありがとうございました。

私が、昭和六一年七月一九日に丸山寿美子様がお書きのように、毎日新聞紙上で知って参加した時だったと想い出しました。

兼がね書いてきたように、皆様の継続的な努力の成果であったことを今更の如く尊いものに見えて参ります。

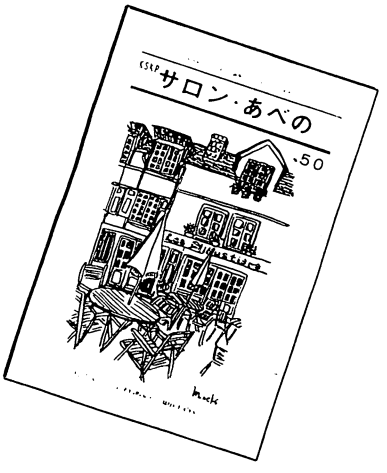
岡様が言っておられるように、各種のご注意を受け止めて何らかの脱皮をはかるべき良い時期にさしかかっているのかも知れませんが、私には、それを具体的に述べることを持ち合わせていないのが残念です。

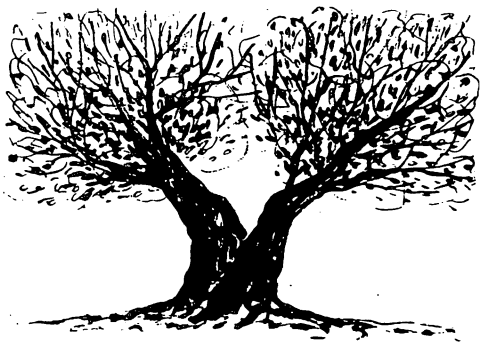
「そうなの」と…

長島伊津子

やっと暑さから解放されたと思ったら雨と台風に見舞われてしまいました。お宅の方、水害はありませんでしたか？

先日は、サロン・あべのの五周年記念誌を送っていただき、本当にありがとうございました。岡知史氏のもうひとつのサロンの中に書れてあることに「そうなの」と言えることが多くありました。仲々皆んなによい会と言うのって、むずかしい問題ですよネ。健常者と同等にすごせることって余りありませんもの。やって上げる方と、してもらうと言う関係にどうしてもなってしまうものです。我が家にしてそうなのですから、障害者は、ソンな立ち場です。





50号記念誌届きました

出会いの場として

政田安代

拝啓、朝夕はややしのぎやすくなってまいりましたが、いかがおすごしでしょうか、おうかがい申しあげます。

さて、先日は、わざわざ「サロン・あべの」五〇号をお送りいただきまして、ありがとうございます。土・日のお休みの間に拝見させていただきました。初めて、こういう本を読ませていただいたんですが、皆さんが「サロン・あべの」を通じて、たくさんの方々とふれあい・助け合い、情報交換をし、力を合わせて頑張っておられるのが伝わってまいりました。

これからも皆さんの素敵な出会いの場であるよう、頑張って下さい。

サロンはぎらぎら色?

町野旬子

九月に入ったとは云え、まだまだの暑さお変わりございませんか。

サロン・あべの五年、冊子五〇号おめでとうございます。猛暑の間がんばってられましたのですね。石の上にも三年とか云われますが、五年皆様方のバイタリティには本当に敬服します。未だ全部読ませていただいてないのですが、サロンは何色に目がいきました。透明、私には、そうは思えませぬ。紙面から受けるだけのイメージですが、いゝ意味でのぎらぎらしたものをいつも感じて居ります。皆様で盛り上げていこうとする勢いでしょうか?。

今後のサロン・あべのの発展に期待しています。

一息に読了

松島春子

ごぶさたいたしました。

なまけてばかりで申し訳ございません。

〃五周年記念〃ときゝますとサボッているわけにもまいりませんので、一息に拝読させていただきまして、各人それぞれのご感慨を実にその通りでしょうと、いつものように感動しながら読了させていただきました。いつの間にか五年がと思われる面と、こゝまでの一日一日が大変だったと思われること……!いつも同じ感想しか書けないので、ついついサボッてしまい失礼しました。表紙の絵も、中のカットも写真のあるのも良かったですね。お一人お一人の顔写真がその文のつど出てもいいかと思いましたが、スペースもお金も大変なのでしょうね。今後ともお元気で益々のご発展を祈り上げます。何もお手伝いしないことをお詫び申しあげます。

絵ハガキで…

松葉玲子

だいぶ過しよくなりましたが、皆様お元気でいらっしゃいますか？

〃サロン・あべの〃五〇号わざわざ、どうも有難うございました。中を拝見しまして驚きました。あんなに大きく載り、しかもすばらしい文章！（上手く構成していただき感謝です）私自信たいへん喜んでいるのですが、周りの方々の話を読んでいるとはずかしくなり、なんて自分はバカなことをお願いしたのかと思いました。

一回目からのサロン紙は、さすがに今のサロン紙とは違い、一枚もので。今では立派な新聞・小冊子のようになっているのを見て、中身も外身も〃サロン・あべの〃は皆さんの力で大きくなったものなんだなぁと感じました。

どうもなまいきな事ですみません。

これからのますますの発展もお祈りし、この辺で～

P・S表はきたないけど裏はきれいですので許して下さい。とはいってもナイアガラからではありません！自宅からです！ややこしいことですみません。

P・SのP・S奥サマのさし絵はすごかった…

保母となって

湯浅真佐子

このたびは、「サロン・あべの」記念誌をお送り下さいまして、どうもありがとうございました。サロン・あべのを発会されて五周年なんですね。

本当におめでとうございます。

私がサロンを初めて訪れたのは、高校三年生の時、ビューローの方でボランティアをしたいと相談にのってもらったところ、こんな所もあるよと紹介していただき冨田様もお誘いくださり、寄せていただきました。それから考えても、もう三年たつんですね。高校を卒業し、専門学校で障害児保育について学び、今春から保育園で保母として働いているのですが、始まったばかりの私にとって毎日が戦争のようです。『私は障害児について学んできた！』と自信を持って現場へ入ったつもりが、障害児を目の前にして……悩む毎日です。教科書通りの障害なんて全くないのです。障害名、病名はあったとしても、全員一緒に生活できて、それぞれ個性豊かでキラキラ輝いている子どもたちなんだなと痛感しました。障害を持っている子どもは、こうしなければならないと型にはまった考えがあった自分がすごく恥ずかしくなり、また、もっともっと奥深いものがあるんだなぁと感じています。今は、その日その日の仕事をするだけで精一杯で、他のことも全然できないのですが、またサロンの方にも寄せていただいて、皆様のお話もたくさん聞かせていただきたいと思っています。

サロン・あべのが本当にいつまでも続くことを心より、お祈り申しあげます。

帰省の前日

岡　知史

こんなことを言っては両親に叱られるだろうが、ぼくは父や母が亡くなったり、重い病気になったりする夢を以前からよくみるのである。

夢はたいてい、あまりにも本当のできごとのようなので、ぼくは夢のなかで泣いてしまうのが常だし、夢から突然さめて、ああ夢だったのかと気づいてからも、ふとんのなかでポロポロと涙を流してしまう。

それも、仕事がら現実に病気になったお年寄りなどを見る機会が多いからだろう。

正月に五日、春に五日、夏に五日、両親に会うとしたら、一年で十五日である。十年で百五十日。二十年で三百日。それでようやく、毎日会っている人の一年分会うことになる。二十年後といえば、父も母も八十歳前後である。

夢のなかで、何度、父や母の突然の訃報を知らされたことかわからない。その度に思うことは、たいてい同じようなことだ。

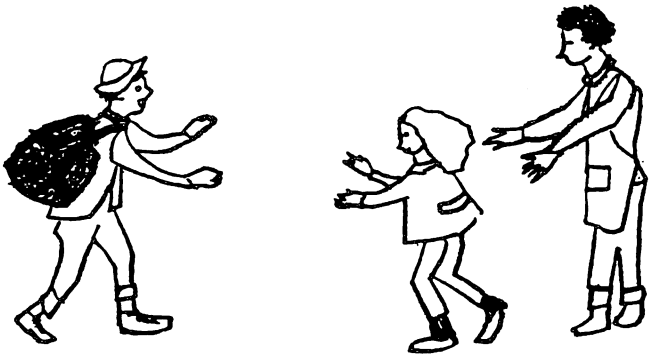
父には、言葉少ないその口から、いろいろな思い、少年時や青年時代を振り返っての思いとか、ぼくや妹が生まれたころの気持ち、四十年あまりも工場で働いてきた思い出などを充分に聞くことができなかったという寂しさを感じた。

母には、いままでぼくに与えてくれた深い愛を感謝するように、手をにぎったり、肩を抱きしめたりすることが、ついにできなかったという悔いであった。

だが、この今朝の夢は、死や病気のような悲しいものではなく、帰省してみると、父と母が近所の人を家に招いて、いっしょに楽しくすごしている夢だった。

父と母の家にたくさんの人がいるのを見て、ああ、これで安心だ、と思ったのである。ぼくも妹も遠くで仕事をして暮らしている。だから、ぼくとしては、父や母が孤独な思いをしていたら、それが一番辛いのである。

帰省してもゆっくり座って話しができないくらい、たくさんの人が家にいて、父や母と新しいことを学んだり、町づくりのことを話し合ったりしている。それを見て驚



きながらも嬉しくて涙が止まらなかった。
夢から覚めてみると、それがそんなに泣くほど嬉しかったのだろうかと、考えこんでしまった。
おそらく、今朝、両親の夢をみたもうひとつの理由は、先日、難病のためにずっと床についているTさんの家庭を訪問したことだろう。Tさんは、娘さんの暖かい看護を受けて、たいへん辛い病気であるのに、幸せそうな笑顔をうかべることができる。
その母娘（おやこ）を見ていると、その病気も看護も、互いの人生にとって非常な重荷であるにもかかわらず、この母娘は他の母娘が体験できないような、貴重な時間（とき）をおくっているのではないかと思うのである。
一般的に言えば、年をとって看護が必要な病身になると、病気になった親の方も、看護をする子どもの方もたいへんな苦労をするのにちがいない。
しかし、親が病気になり、子が看病をするという状況のなかでしか産まれえない、子と親の関係があるのではないか。そこにおいて初めて語られる言葉や、伝えられる真実があるのではないか。
ぼくにはまだそんな経験はないのだが、仲のいいTさん母娘を見ていると、そんなことを思わずにはいられないのである。

●われらがあべのボランティア・ビューロー④

やるっきゃない、という時だと思うんです

最近、ちょっとまずいなと思っていることがあるんです。どうもちょっとしたことで「最近の若いもんは・・・」なんて思ってしまうんですね。いや、別に年をとったといって嘆いているんではないんです。地下鉄で順番抜かしをする人に「おばはん、おまえらが悪いから子どもが悪くなるんやないか」とも思うんですから。つまり、どうもごそごそ文句ばっかりいってしまうことがまずいなぁ、と思ってるんです。
僕は、サロン紙なんかでこんなことを書く機会があるので好きなことをいってます。ちょっといい加減だけどそんなに間違ってもないとは思うんですが、ここのところ世の中情報があふれて「いい話」というのはいくらでもある。みんな正しいことをいって、それを聞いた人も「そうだ、そうだ」と思ってる。でも、どうもそれだけみたいなんですね。外国のボランティア活動がテレビかなんかで紹介されてみんな感動したって、次の日にあべのボランティア・ビューローに活動希望者が殺到して困ってしまった、ということも残念ながらないみたいです。
みんな何となくかしこくなって「頭ではわかってるんだけど」っていうのがとても多くなってるみたいです。だから、文句ばっかり言うんじゃなくて身体を動かさないといかんということはわかる。でも、なかなか自分からひとりでは動きがとれないし、そんな時に声をかけて、引っぱってくれるのがボランティア・ビューローであり、サロンなんです。ちょっと強引に（でも優しく）誘ってみるのも僕らの仕事かな、って思います。あべのボランティア・ビューローがついてるから心強い、と思えばできそうな気がするんです。

●原田　仁

美智子のこんな話

岸田　美智子

二mの高さにトイレのスイッチが

八月の三、四、五の二泊三日で長野県の上田市にて全障連大会が開かれました。

五、六年前から私は毎年参加してきたので今年も参加しました。

二、三年前から、一日目の全体会はさぼって、観光巡りをしています。今年も一日目は、長野市の飯綱山の憩いの村ペンションで一泊しました。

ここは、障害者用の部屋が完備されていました。このペンションがある高原は、非常に高くて長野市の駅からバスで四〇分位かかるのですが、そのコースはバードラインと呼ばれていて、すごい坂と九〇度以上のカーブが連続しています。この四〇分間だけでも非常にスリルが有って都会で暮らす私にはその涼しさ等も含めて充分気分転換になりました。

長野県は大阪駅からJR・特急〈しなの号〉で、五時間二二分かかります。やっぱり長野は遠いなぁと実感しました。途中JRのサービスで、島崎藤村の「夜明け前」にでてくる木曽路の山深い風景のところで、ゆっくり走ってくれました。木曽川の風景や千曲川等、本当に気持の良い静かな風景でした。又、善光寺等をみることも出来ました。ただ、一日目のペンションで、思った事ですが、障害者のトイレのドアの電動スイッチがなんと、二m以上も上についていました。健常者でも立って手を上に伸ばさないと届かない位置なのです。

そして、洗面台の手すりやお風呂の作り方等、脊損の障害者（自分の手で何でも出来る人）が対象になっているらしく、手がつかえない私のような障害者の人には、使いづらい設備でした。

それにしてもトイレの二m以上も上にあるスイッチはどういう意味なのでしょうか…。色々な障害者が使っていない証拠なのでしょうか――。

二日目からは、大会に参加して全国の障害者運動を行っている仲間達と交流も出来ました。

ナンペイの

「ひとこと&ふたこと ❷

＊胃カメラを呑む＊

今年の夏は、記録的な猛暑。

日中は、体温を越える水銀柱に攻め立てられ、毎夜毎夜、熱帯夜は続く。「これじゃたまらん」という訳で、クーラーはフル回転。もともと好きなこともあって、私のビールの量もグゥ〜ンと増える。

その結果、ダメージがあったのはわが家の家計だけではなかった。というより、むしろ私の胃袋にこたえたようで、ある日友達の家で納涼パーティーを楽しんだあげくダウンするという最悪の結果になってしまった。

言い訳になってしまうが、自分自身ではダウンするほど飲んでいないつもりだったのに、それまでの不摂生がたたり、友達にとんだ迷惑をかけてしまった。そんな事もあり、普段なら二日酔いぐらいと軽く考えてなかなか自分からすすんで病院へ行こうとは思わないのだが、今度ばかりは自ら病院へ出掛けていくことにした。

その結果が、私にとって初めての体験である「胃カメラを呑む」ということになった。

五年ほど前、バリュームを飲んで胃のレントゲンを写したことはあるのだが、「胃カメラ」ともなるとやはり心の準備というか、多少の決心が要るようだ。胃潰瘍や、もっと悪くて胃癌という診断結果への恐れも確かにあるにはあったが、それよりもまず不安に思えたのは食べ物でもない物を口の中につっこんで胃まで遣る、そのことだった。

なにしろ、水を飲んでも喉につっかえて咳こんでしまうような障害の私である。あんなゴムホースのようなものを呑んで、窒息してしまわないか、などと不安になるのも無理のないことと思いながらいよいよ検査当日になった。

ベットに横になって、口にマウスピースのような物をくわえるとその間から胃カメラの先端が入ってくる。喉の奥にそれが触れるとすぐにゲーゲー。あらかじめいろんな薬を飲んで緊張を押えているのだが、それでも不随運動がおこる。看護婦に「動かないように」と言われても、余計に喉が締まってゲーゲー。しばらくはこの繰り返しだったが、とうとうベテランの先生にバトンタッチ。

「動くなって言っても無理。動いてもいいよ」

このベテランドクターのひとことで、ゲーゲーは止り不思議なほどすんなりと胃カメラは喉の奥を通過。あれ程苦労した検査はほどなく無事終了。あらためて、脳性マヒという障害の不思議さに我ながら驚いてしまった。

ところで、肝心の検査結果はというと、単なる飲み過ぎによる軽い胃炎とのこと。山ほどの薬を頂戴して一件落着でした。

南光龍平

おしらせ

十一月の出会い

日時　平成二年十一月十七日（土）
　午後一時～四時

場所　育徳コミュニティーセンター研修室（車イス・スロープ有）

内容　楽しい「おりがみ」
　指導
　阿倍野区ボランティア連絡協議会
　おりがみグループ代表今村明子氏

会費　一〇〇円（材料費）

問合わせ　TEL・06-691-1028（冨田慶子）

＃感謝します＃

カンパ・切手・冊子等、ご協力ありがとうございました。お礼を申し上げます。

九月のカンパ　金六三、〇〇〇円
秋野富美子、上田　敏、大戸睦美、岡　賀寿子、金子花江、崎本ヒサエ、沢田妙子、塩川美代子、正田敏子、塚脇みえ、つくし会、中西利香、南光龍平、町野旬子、松島春子、宮崎隆正、古川克代、土屋由美子、匿名四名様（敬称略）

∞サロン・あべの紙の朗読テープが出来ました∞

「阿倍野区ボランティア連絡協議会」の朗読グループのご協力により、サロン・あべの紙の録音テープを作っていただいています。バックナンバーは三九号から、五一号の分があります。五〇号は記念号で頁数がおおく、九〇分と六〇分の二巻に収録されています。サロン紙朗読テープご希望の方は、冨田までお申し出下さい。

（TEL06-691-1028）

となりの放送

点字講習会のご案内

点訳ボランティア養成講習会を開きますのでご参加下さい。

日　時；平成２年１１月１４日～
　平成３年２月迄１０回
　（水曜日１８時３０分～
　２０時３０分）

場　所；大阪市立南母子寮
　（地下鉄西田辺駅下車）

定　員；２０名

会　費；５００円（テキスト代）

申し込み先；阿倍野区福祉事務所
　〒545 阿倍野区文の里
　１－１－４０
　電話６２１－１４２１

＊１１月７日迄にハガキでお申し込み下さい。

編集後記

久しぶりにサロン紙の編集をさせてもらいました。みなさんからいただく原稿がますます増えていることは本当にうれしく思います。これからもよろしくお願いします。

（は）

編集人＜サロン・あべの＞第５２号
編集：サロン・あべの　運営委員会　定価 100円
（大阪市阿倍野区阪南町６－３－２６．
電話０６－６９１－１０２８冨田慶子）

一九九〇年十月二九日発行（毎日発行）KSKP通巻一四二九号一九八四年八月二〇日第三種郵便認可
発行人＝関西障害者定期刊行物協会　大阪市東成区中本一－三－六　ベルビュウ森の宮二〇七号